

早稲田大学 スポーツ科学部 古典 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分（現代文2問、古漢1問）
出典・その他	中島広足(江戸末期の国学者・歌人、1792－1864)の『檀園文集』からの出題。全体に標準的な問題である。基本的な知識を正確にマスター出来ているかどうか問われている。

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント
(三)	問十四	1は、基本古語の知識を問う問題。4は、「え～打ち消し」(不可能)という基礎知識を問い、さらに、代動詞「ものす」の意味を文脈から判断させる問題。5は、係助詞「かは」(ここでは反語の意)という基礎知識を問い、さらに、省略されている結びを、文脈から判断させる問題。
	問十五	傍線部2の「らむ」が、助動詞「らむ」であることに気付けば、正解を選べる。
	問十六	指示語の指示内容を把握させる問題。傍線部中の「ほど」が、ここでは「ころ、おり、時分」などの意であることに気付けば、正解を選べる。
	問十七	「 <u>こ</u> ころのみ むす <u>ぼ</u> ほれけり <u>へ</u> だてなく かたらふひとの <u>た</u> びになければ」
	問十八	選択肢中の「うし」、「恋し」、「楽し」、「ありがたし」、「つきづきし」という基本古語の意味が分かれば、正解を選べる。
	問十九	ハ「雨月物語」は上田秋成作の読本。1768(明和5)年成稿、1776(安永5)年刊行。
	問二十	(1)は、押韻の知識を問う問題。(2)は、「異国に久しく客と為り、寒宵頻(しき)りに帰るを夢(ゆめみ)む」に続く句であることから、ロは「遊学中のあなたから」、ハは「異国を旅する家人から」が誤り。(3)は、再読文字「応」に注意し、文脈から判断する。